

第4講 ギリシアにおける青銅器時代

ミケーネ社会と国家モデル

I. 古典学説：西南アジア型の官僚制を伴う専制国家

ヴェントリスやチャドウィックの方法論

H. D. チャドウィック、『ミケーナイ社会』、安村典子訳（みすず書房、1983）

太田秀通氏の方法論

太田秀通、『ミケーネ社会崩壊期の研究』、（岩波書店、1962）

II. 古典学説に対する批判

前川和也氏の批判

前川和也、「シュメールとミケーネ」『人文学報』32、（京都大学 1971）

中井の批判

中井義明、「線文字 B 文書に見られる家族関係」『駿台フォーラム』7、（1989）

山川廣司氏の反論

財貨調達型経済モデル

M.L.Galaty and W.A.Parkinson(eds.), *Rethinking Mycenaean Palaces, New Interpretations of an Old Idea*, Monograph 41, The Costen Institute of Archaeology University of California, Los Angeles, 1999.

経済における宮殿セクターと非宮殿セクター

宮殿における直接生産と ta-ra-si-ja システムによる統制と調達

do-so-mo（貢税）や xe-nwi-a（賓客関係による交換）、o-no（購買）による調達。

後期ヘラディック期（ミケーネ時代）：前 1600～1065

年頃

- 1) 考古学的には・・・堅穴墓・ソロス墓の出現
豪華な副葬品（黄金製品等） } 王朝の出現
2～3世代使用
王宮の出現
遺跡数の増加

↓

このような文明発展に対する従来の説：

アカイア人の侵入と征服（前 1600 年頃）

現在：文化的連続性の強調

黄色ミニュアス式土器：後期ヘラディック期でも制作

堅穴墓の起源：中期ヘラディック期に遡る

- 2) 花粉からは・・・イネ科の雑草
穀物型イネ科 } 増加→活発な農耕
ヘラオオバコ } 増加→牧畜の活発な活動
ナラ } 減少
ゲンゲ } 増加

森林伐採と土地開発の活発化

↓

後期ヘラディック後期の変調

- イネ科の雑草 }
穀物型イネ科 } 減少→農耕の減退
ヘラオオバコ } 相対的増加→牧畜への傾斜
ナラ } 回復
ゲンゲ } 減少

森林伐採と土地開発の低下

全体として地中海農業の特徴であるオリーブやブドウの花粉の欠如

今日の地中海地方の風景を特徴付けるマツの欠如

(ダイアグラムに現れるのは遠方より風によって飛ばされて
来たもの)

2) 文献史料によって明らかにされて来たもの